

## 見学者の感想文より

たと思います。だから、絶対にまわりの人に伝えな  
いといけないと思いました。素直にいつも傍にいる  
人や大切な人と向き合っ一緒にいる時間を大切  
にしていかなければならないと思いました。

大川小学校を見るのはつらいからと4  
年もたっているのに見に行けないという話もして  
いただきました。大川小学校は震災のことを忘れな  
いように置いとくべきだという意見と辛いから撤  
去してほしいという二つの意見がありました。この  
ことについて私はどちらの気持ちもわかるなあと  
思いました。最初は行っていいのかなとか、思って  
いたけど本当に行ってよかったと思いました。

残してほしいと思いました。それは、あの場所  
に行くとき自分の無力さや津波の脅威を感じられる  
からです。自分が防災を勉強していても幼い尊い命  
を守ることが出来ないのではないかと思う反面、そ  
れでも被害を少しでも抑えられるようにもっと勉  
強していかなければならないと改めて防災への強  
い意志を固めることができました。

見るたびにあの日の悲しみや悔しさを思い出してしまう  
であろう大川小学校の校舎をあの形のまま残して下さっている町の方にはすごく感謝しています。町の中でもあの校舎を残すか残さないかでは意見が割れていると聞きましたが、私のようなあの町で生活していなかった者がこのような口だしをしていいとは思っていませんが、私としてはこれからもずっと残していつてほしいと思います。確かに、あの校舎を残すには勇気がいるしとても辛いことかもしれないけれど、私はあの校舎で笑い合っただけで毎日を過ごしただろう亡くなった子どもたちの為にもあの校舎は潰してはいけません。これからあの校舎がどのような結末を迎えるかはわからないけれど小学生の為にも残してほしいと私は強く思います。それは彼

が、今でもまだ現地で辛い現状が残っているのだと分かりました。

次に訪れた大川小学校の周辺には、本当に何もなくて、家や店があった頃の町の写真を見せてもらっても泥や瓦礫などはもうほとんど全て撤去されているので震災を思わせるようなものはなに一つ残っていませんでした。そして何よりも人がいないため、正直震災前の街の様子が私には全く想像できなかったです。ただ呆然と立ってその何もない場所を見つめていました。

私が、被災した場所にいると実感したのは、大川小学校の敷地に入ってからです。綺麗な校舎の写真を見たあと、自分の前に建っているステージだけが残された体育館や根本から曲げられた渡り廊下などを見ると、津波の本当の威力を目のあたりにしました。ここで普通に私達と同じように、当たり前前の生活が繰り広げられていたとは考えられませんでした。それから奥の山に登らせて頂き、海の方を見ると悔しくて仕方なかったです。

4キロも離れていたのに。時間もあつたのに。“ここに登っていれば助かっていた”のに。私は涙が止まりませんでした。「ここで亡くなった子達が生きたかった明日を生きている。」大川小学校で聞いたこの言葉は真っ直ぐ私の心に響きました。今大川小学校を残すか残さないかの会議が行われているそうです。私は残しておくべきだとすぐに思いました。見たら思い出すから残さないべき。という意見も私は納得できました。しかし、あの建物をまだ見たことない人に見てもらい、当たり前前を奪われることほどおそろしいことはない、ということを感じ取ってもらいたいと思いました。

このボランティアで1番心に残っている事は、大川小学校を訪ねた事です。震災を受けた当時の状態を残してあり、それを見て初めて津波の威力を感じました。これまでも映像を見たり、話を聞いたりした事は何度もありました。しかし、やはり実物を見ると感じるものが何か違いました。また、4年半前まで普通に学校があって生徒が通っていたこと考えると、災害は本当に普通の日常を襲い、大災害は日常を奪っていったのだと思えました。こんなにも呆気なく、いつもの日常がこんなにも簡単に失われてしまうのはとても恐いと思いました。だから、私はもっと毎日を大切に生きて行きたいと思えます。

大川小学校について、私はボランティアに行くまで全然知りませんでした。震災についてのニュースをあまり詳しく見た事がなかったからです。自分のことを愚かだと思いました。自分の国で起こった事なのに全然知ろうともせず本当に愚かだったと思います。このボランティアでたくさんの人から3.11について教えていただきました。この事を私は家族に伝えました。そうする事で、この機会に教えていただいた事を忘れないようにするためです。